

【ライブ配信】 楽天CFDセミナー

コモディティアナリスト 吉田哲の注目銘柄と今後の展望

2025年10月30日（木） 19:30～20:15

本案内に記載の勉強会では、勉強会でご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。弊社の取扱商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面等をよくお読みになり、内容について十分にご理解ください。

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

楽天証券経済研究所 コモディティアナリスト

吉田 哲 (よしだ さとる)

1977年生まれ。超就職氷河期の2000年に、新卒で商品先物会社に入社。2007年よりネット専業の商品先物会社でコモディティアナリストとして活動を開始。2014年7月に楽天証券に入社。2015年2月より現職。

「過去の常識にとらわれない解説」をモットーとし、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどで幅広く情報発信を行っている。2016年7月から2021年3月まで毎週火曜、日経CNBCでコモディティ情報のコーナーを担当。

現在は、ほぼ毎営業日、ウェブサイトみんなかぶ（先物）にコメントを（2025年10月22日時点で2079回目）、毎週火曜日（原則）、楽天証券のオウンドメディア「トウシル」に週刊コモディティレポートおよび動画コンテンツを投稿中。

大学生と高校生の娘とのコミュニケーションの一部を、活動の幅を広げる要素として認識。キャリア形成のための、学びの場の模索も欠かさない。

山形県生まれ、趣味は合唱曲鑑賞。

1. 商品CFD 変動率ランキング
2. 注目銘柄の振り返りと展望
3. 質疑応答

● 商品CFD 変動率ランキング (2024年12月30日と2025年10月22日を比較)

No	銘柄	騰落率
1	銀	+65.53%
2	プラチナ	+64.17%
3	金	+57.46%
4	パラジウム	+51.15%
5	香港HS50	+28.75%
6	生牛	+27.53%
7	コーヒー	+25.19%
8	日本225	+23.02%
9	銅	+20.71%
10	ユーロ50	+15.94%

No	銘柄	騰落率
11	米国500	+12.88%
12	米国30	+9.31%
13	インド50	+8.40%
14	豚肉 ※	-1.27%
15	コットン	-5.08%
16	トウモロコシ	-5.53%
17	小麦	-7.43%
18	粗糖	-17.41%
19	原油	-18.03%
20	ココア	-39.16%

出所：マーケットスピードⅡのデータより筆者作成

※豚肉は参照原資産であるCMEの豚赤身肉先物市場を参照

● NY金先物、大阪金の価格推移（2023年10月2日を100）



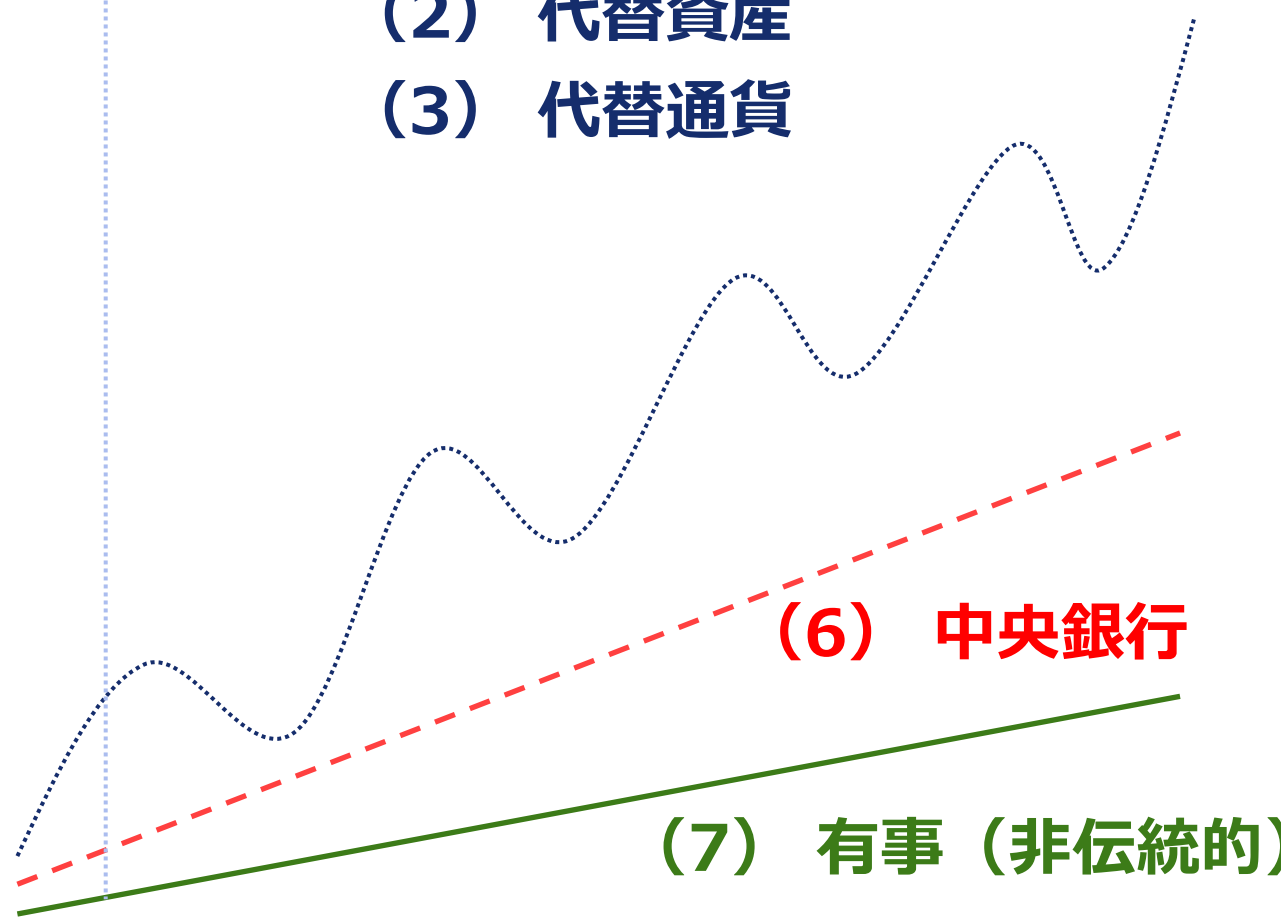
出所：マーケットスピードⅡおよびInvesting.comのデータをもとに筆者作成

● ドル建て金（ゴールド）価格の推移イメージ

2010年ごろ

- (1) 有事（伝統的）
- (2) 代替資産
- (3) 代替通貨

伝統的テーマ
(天動説)



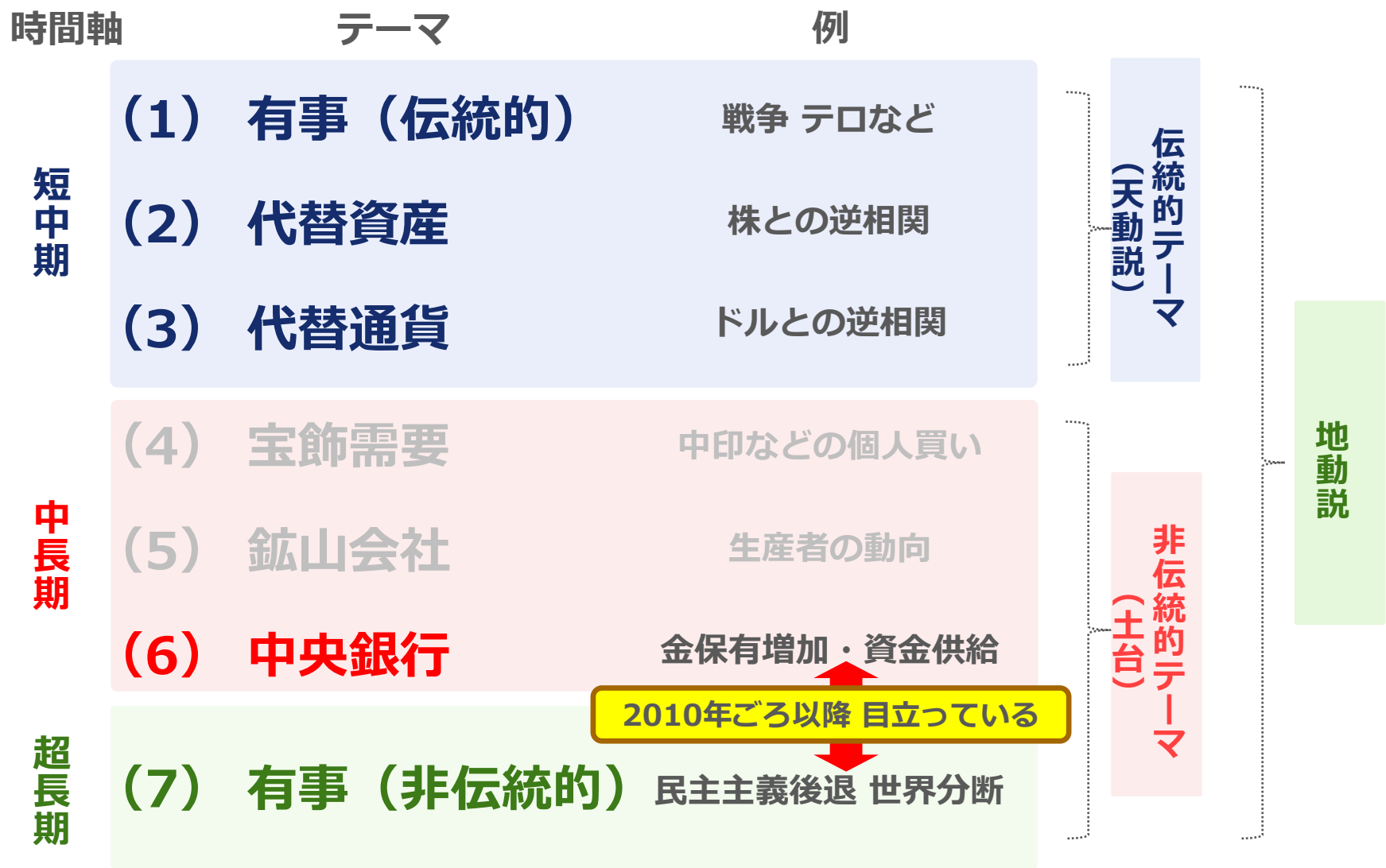
非伝統的テーマ

『土台』

出所：筆者作成

金相場の長期上昇トレンドは長期視点の材料に支えられている。

● ドル建て金（ゴールド）に関わる七つのテーマ（2025年）

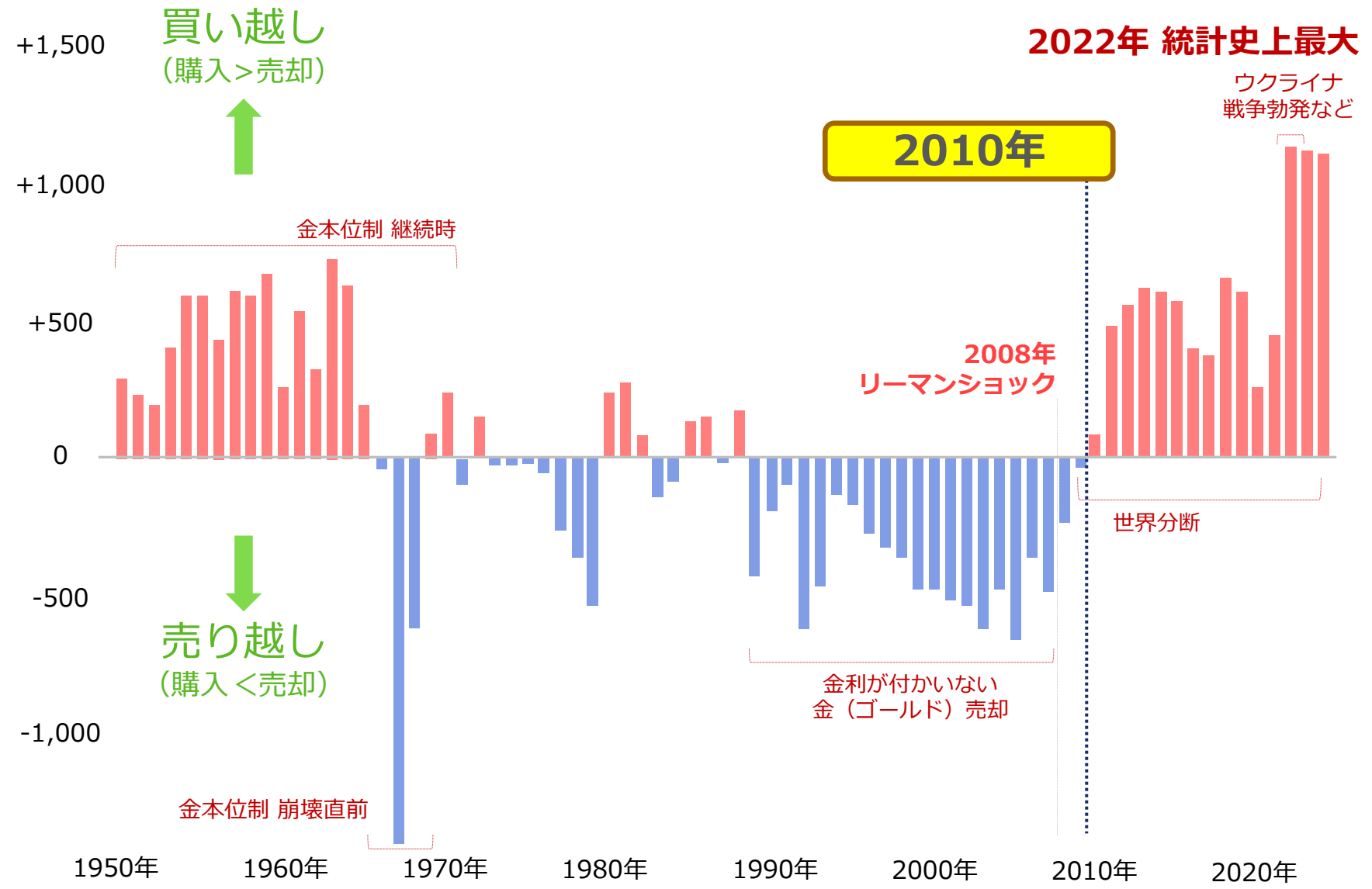


※ 円建て金（ゴールド）は、ドル建て金に追随しつつ「ドル円」の影響を受ける

出所：筆者作成

現代ならではの考え方が必要。伝統的材料だけで分析をしてはいけない。

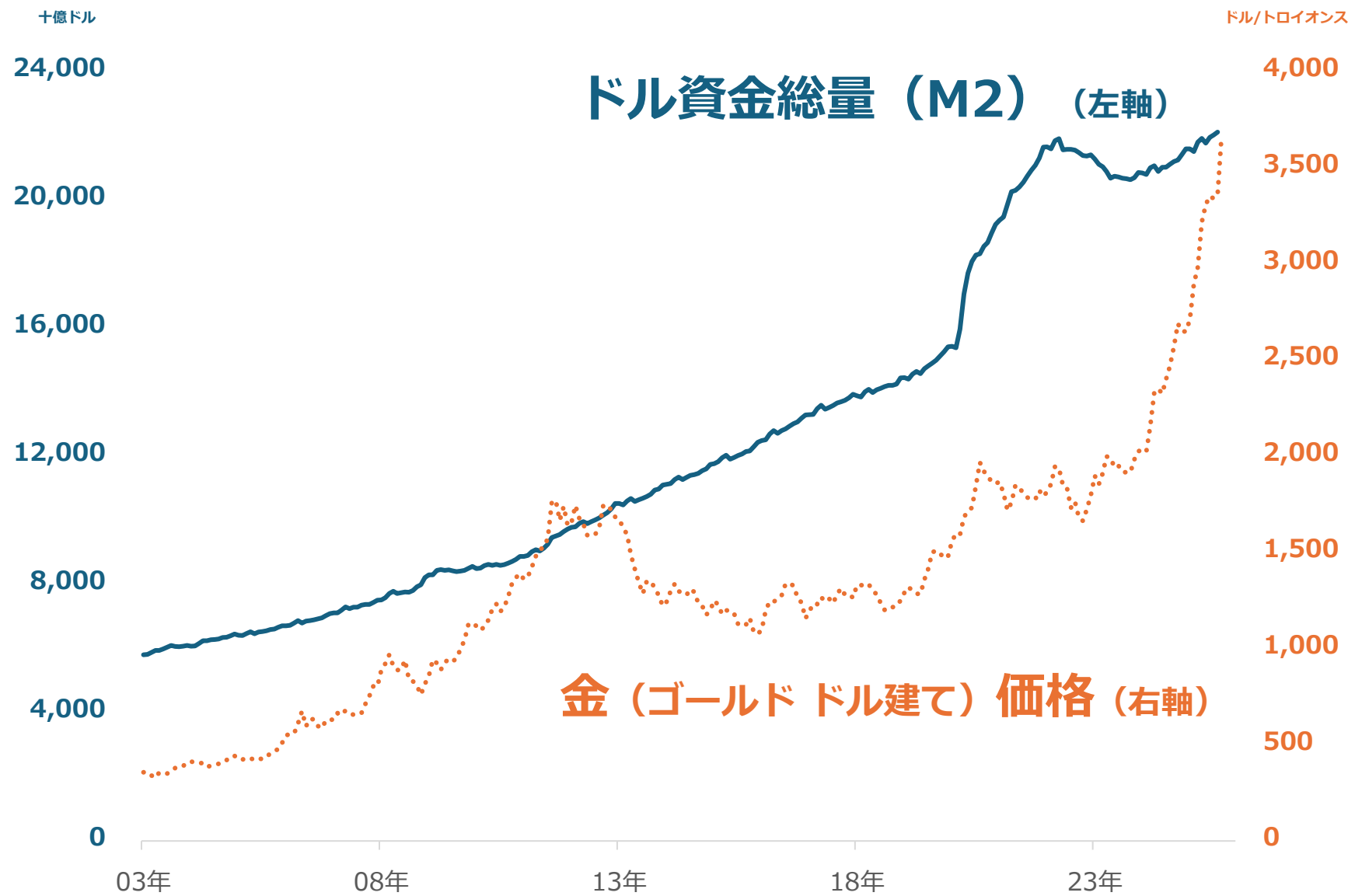
● 中央銀行による金（ゴールド）買い越し量の推移 単位：トン



出所：WGC（ワールド・ゴールド・カウンシル）の資料をもとに筆者作成

2010年以降、中央銀行の金（ゴールド）買い越しが目立ち始めた。

ドル資金総量 (M2) と金 (ゴールド) 価格の推移



出所：セントルイス連銀および世界銀行のデータより筆者作成

ドルの価値希薄化懸念は、長期視点の金 (ゴールド) 相場の上昇要因。

● 有事（伝統的）と有事（非伝統的）の例

短中期（1）有事（伝統的）

見えやすく、わかりやすい

- ・ 物理的な衝突を伴う戦争・テロ
- ・ 大規模な自然災害
- ・ 大規模な金融危機
- ・ パンデミック など

例) 中東情勢不安定化 トランプ関税への不安、実態を伴わない株価急騰

短期視点で金市場に
ブレ幅を提供

超長期（7）有事（非伝統的）

2010年ごろから
目立ち始めた

見えにくく、わかりにくい

- ・ 新しい技術がもたらす「脅威」
- ・ 社会の変革がもたらす「不安」
- ・ 新しい考え方がもたらす「混乱」
- ・ 世界分断がもたらす「混沌」
など

例) 世界の民主主義の後退、新興国の米国離れ、ドル覇権崩壊懸念

長期視点で金市場を
支える『土台』

出所：筆者作成

社会の多様化に伴い、「有事」は分解される時代になった。

● トランプ口座（案）の概要とメリットおよび想定されるデメリット

概要

2025年から2028年の間に生まれた米国籍の子供一人あたりに、米政府から1,000ドル（約15万円 1ドル=150円の場合）が自動的に供与され、米国株式に連動する低コストのインデックスファンドで運用される。

メリット

利用者：原則として18歳まで資金の引き出しができないが、それまでの間、運用益についての課税は繰り延べられる。教育や住宅購入などのため、段階的に資金を引き出せる。

金融業界：新たな顧客層の開拓につながる。将来的にトランプ口座が年金積立口座（IRA）に移管される案もある。長期視点の資金流入が期待される。

トランプ大統領：子供、親、祖父母といった幅広い層からの支持を獲得できる。

デメリット

価格暴落が発生した際、社会的な動揺が大きくなる。

市場が「インフラ」と化し、否定的なことが起きにくくなる。

株式アナリストは「インフラ整備」のため より好意的な意見を述べるようになる。

思惑を増幅するSNSと相まって、思惑主導（実態軽視）の価格上昇が起きる。

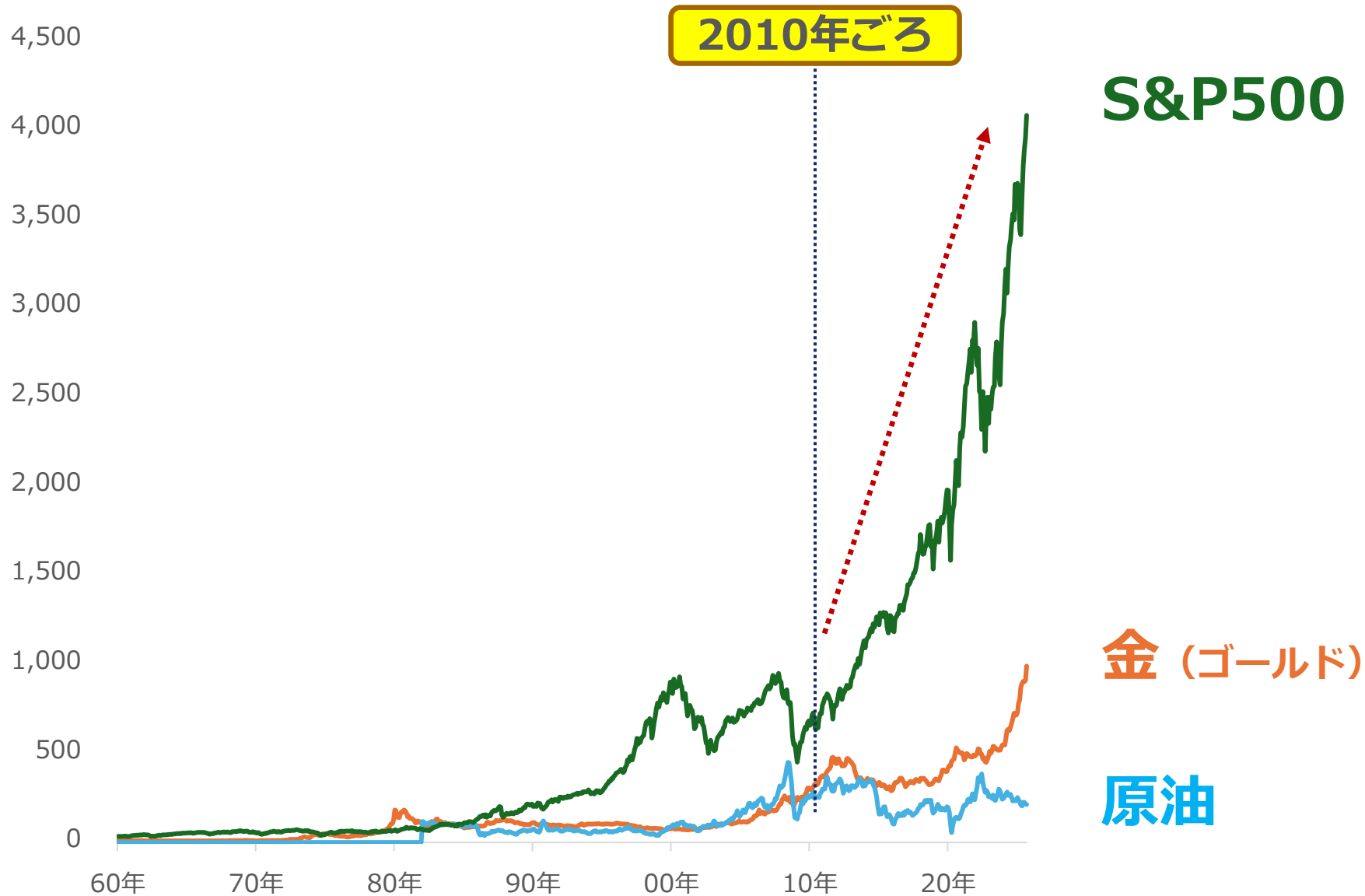
思惑で形成された市場価格と実態の乖離が拡大する。

市場の中立性が損なわれる。

出所：各種情報源より筆者作成

「トランプ口座」が導入されれば、短期視点の有事が強まるかもしれない。

● S&P500種指数の推移 (1984年1月を100 2025年9月まで)



ブルームバーグ、Investing.comおよび世界銀行のデータ、各種情報源より筆者作成

株価指数の上昇は経済学だけで説明できない と考えはじめなければならない

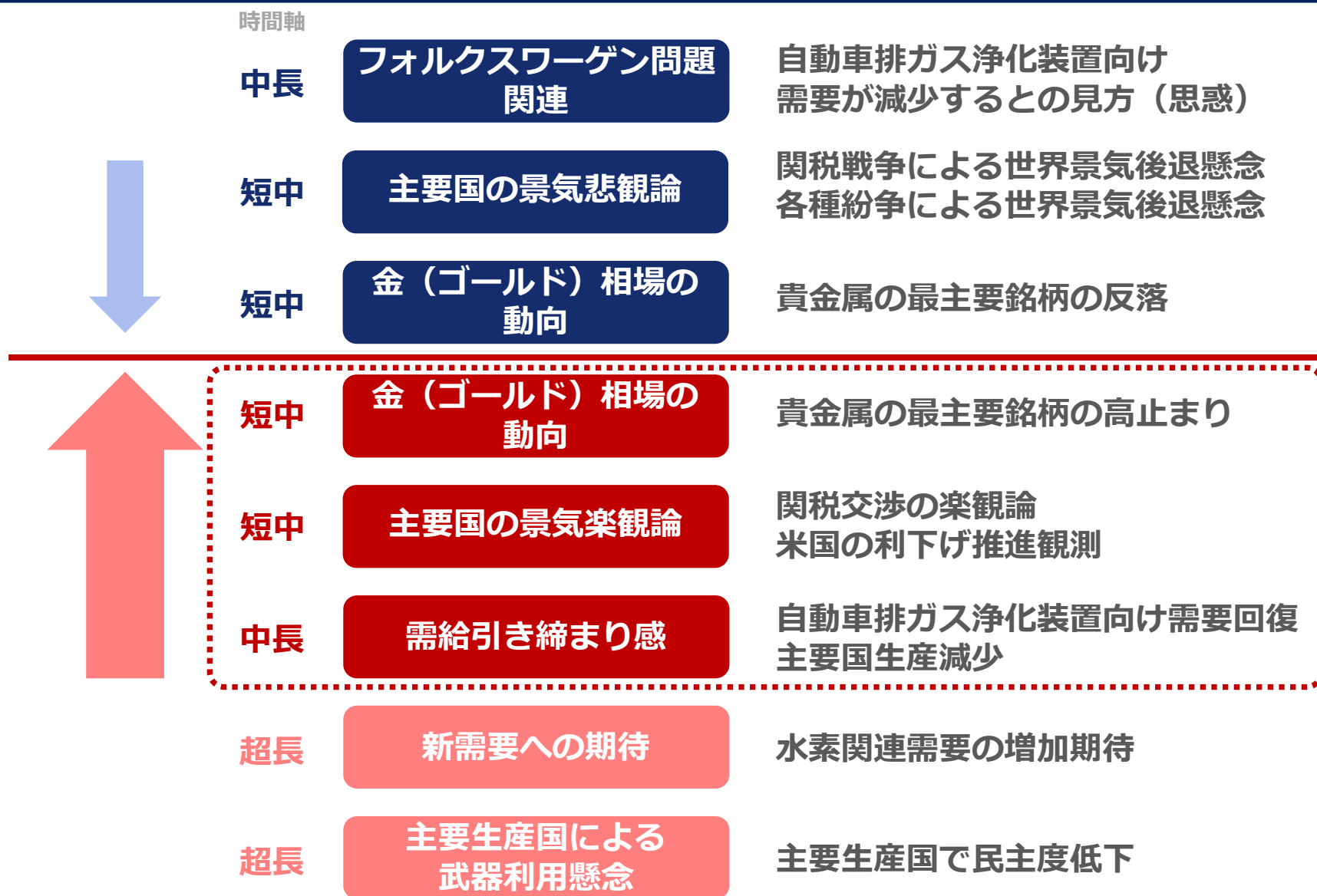
● ドル建てプラチナ、金（ゴールド）価格推移（月足終値） 単位：ドル/トロイオンス



出所：世界銀行のデータより筆者作成

かつて二つの値動きは、価格差の議論ができるほど似通っていた。

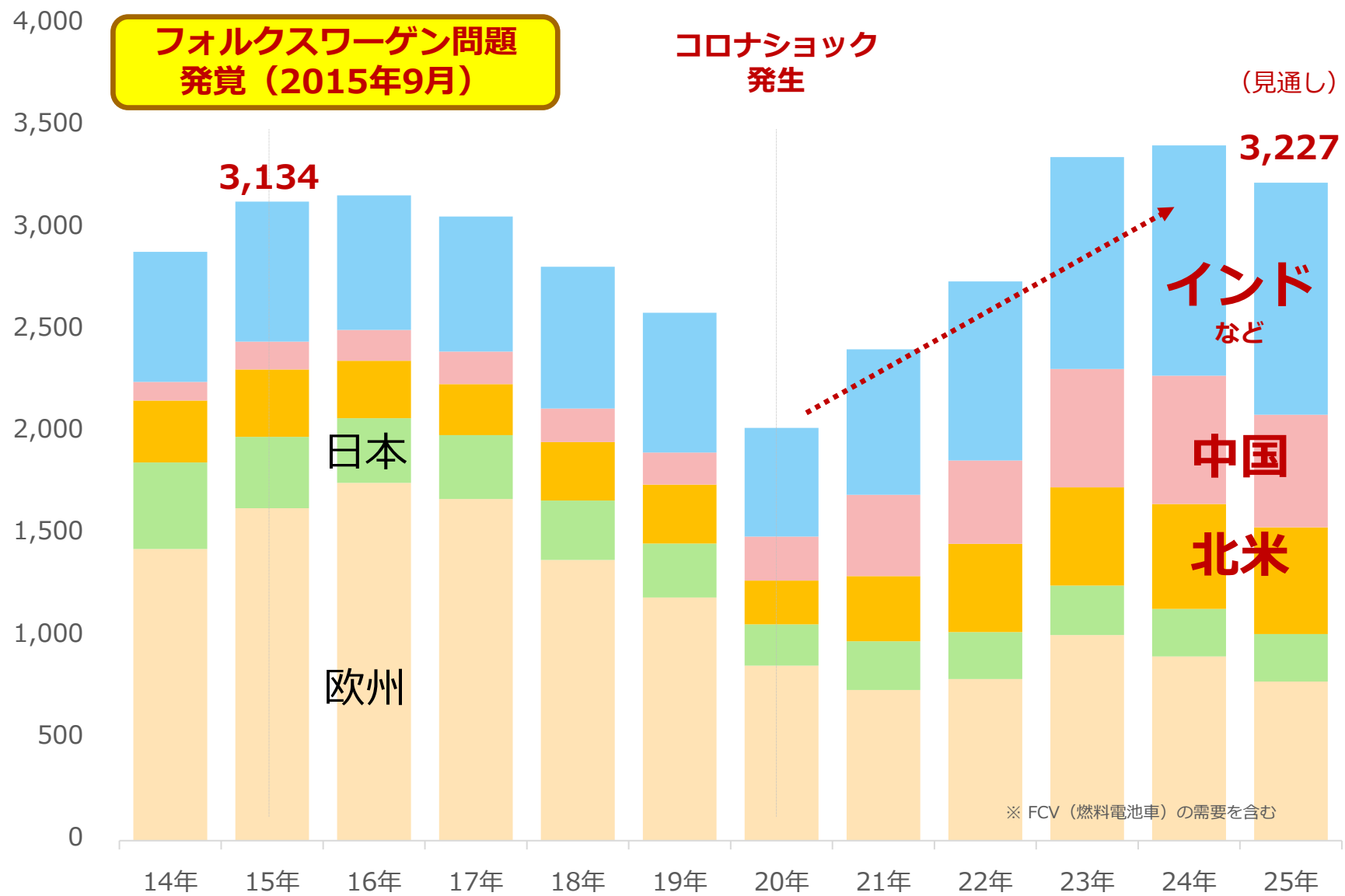
● プラチナ市場を取り巻く環境（2025年）



出所：筆者作成

短期視点で、上昇圧力が勝っている。

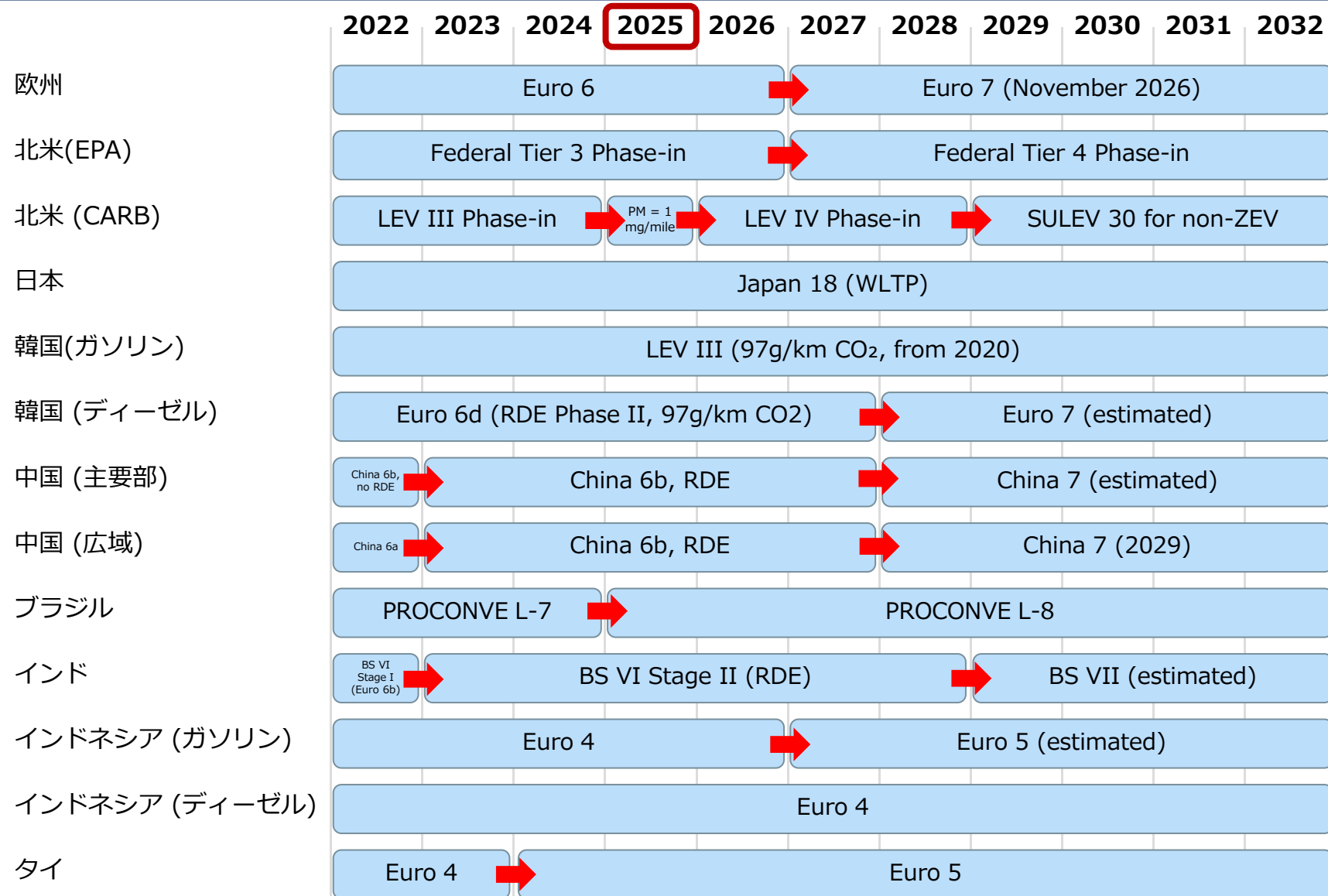
● プラチナの自動車排ガス浄化装置向け需要の推移 単位：千オンス



出所：Johnson Mattheyのデータをもとに筆者作成

プラチナの同需要は問題発覚の年の水準まで回復した。

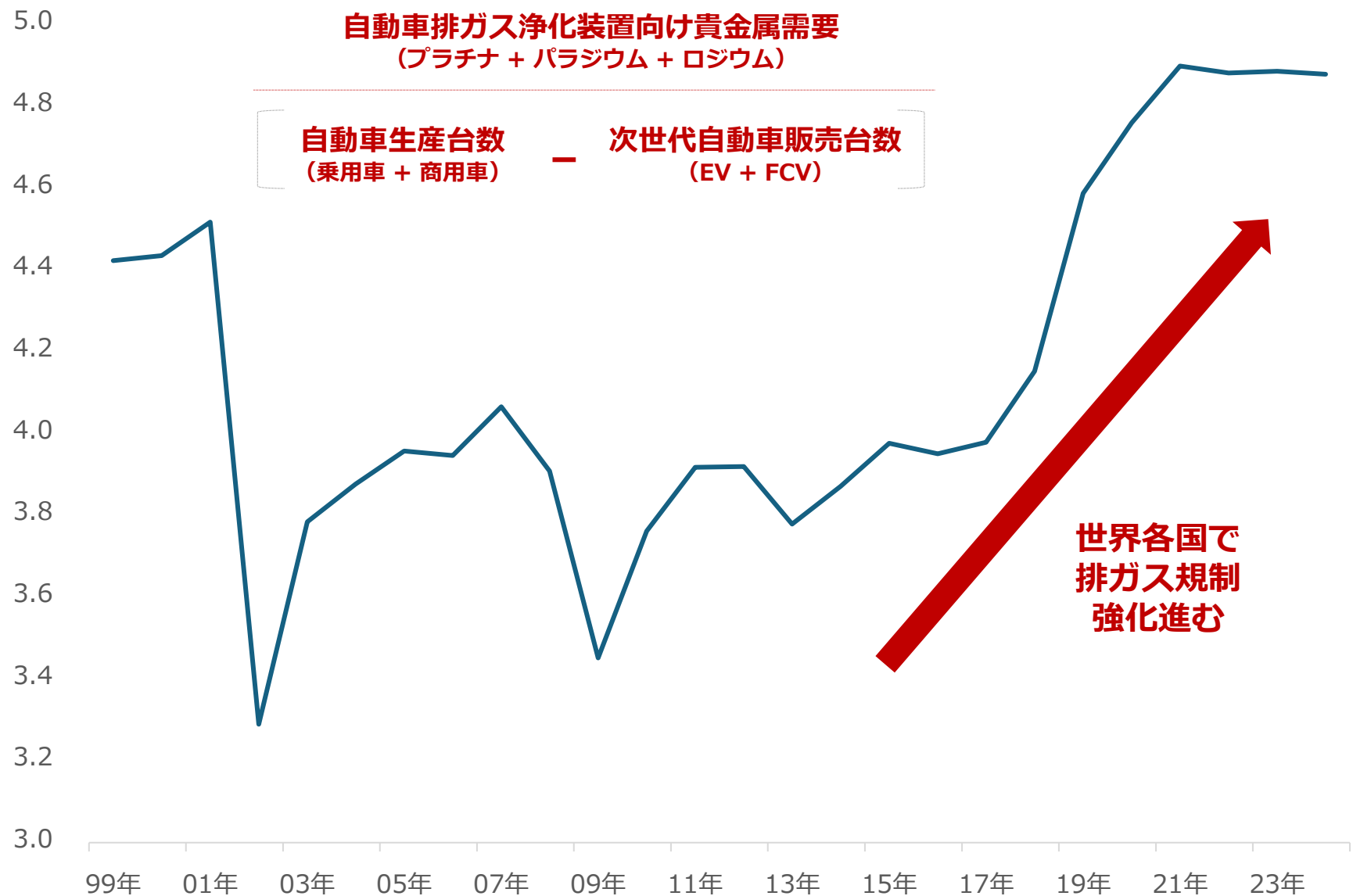
● 小型車の排出ガス規制の動向と見通し（2025年5月時点）



出所：Johnson Mattheyのデータをもとに筆者作成

自動車の排ガス規制は、今後も厳しくなる可能性がある。

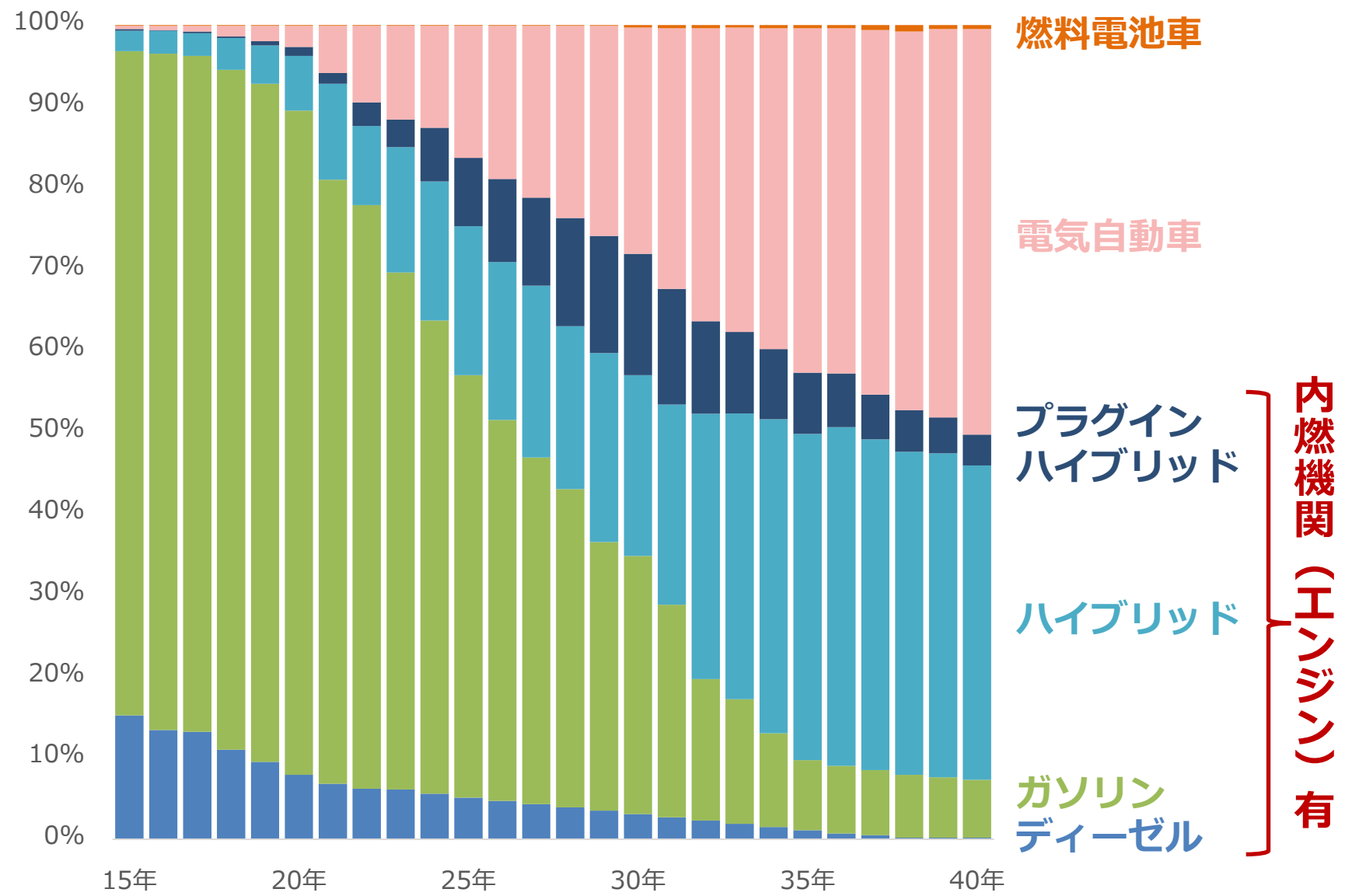
● 内燃機関を有する自動車1台あたりの排ガス浄化装置向け貴金属需要（筆者推計 世界合計） 単位：グラム/台



出所：Johnson Matthey、OICAのデータをもとに筆者推計

排ガス規制の強化は 自動車1台あたりの貴金属需要を増やしている模様

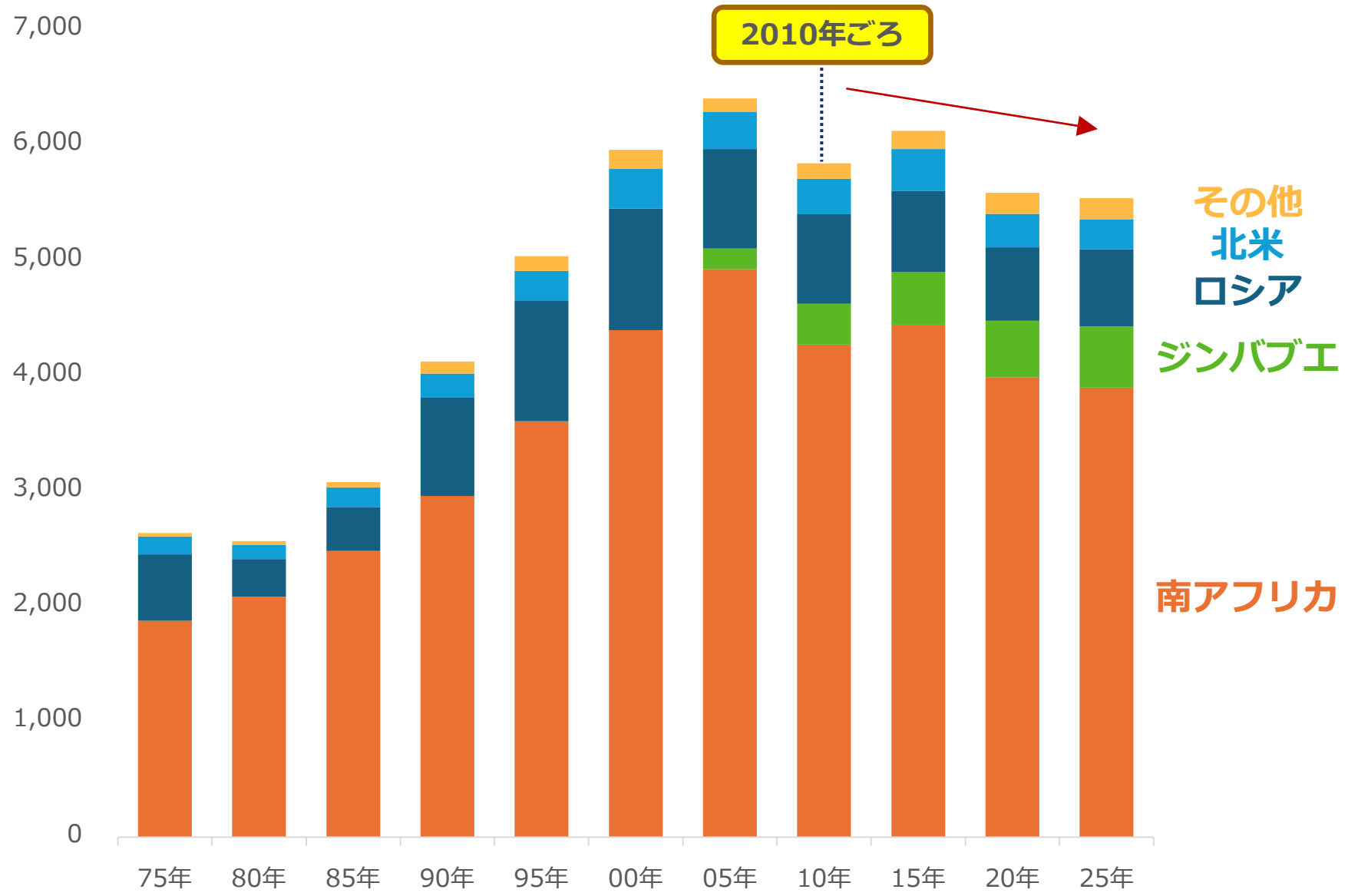
● 新車生産における動力源比見通し（イメージ）



出所：WPIC（World Platinum Investment Council）のデータをもとに筆者作成

内燃機関（エンジン）を有する自動車はなくならない模様

● プラチナの国別鉱山生産量（5年間の平均） 単位：千オンス



出所：Johnson Mattheyのデータをもとに筆者作成

諸情勢の影響で、プラチナの鉱山生産量は2010年ごろ以降、減少傾向にある。

ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なる場合がございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいませようをお願いいたします。

CFD取引にかかるリスクと費用等について

CFD取引にかかるリスク

CFD取引は、お取引の対象となる銘柄の価格変動、金利相当額、配当相当額、価格調整額の支払い、各国の経済、社会情勢、金融政策、金融指標等の変動により損失が生じるおそれがあり、投資元本が保証されたものではありません。また、CFD取引は差し入れた証拠金を上回る金額の取引をおこなうことができるため大きな損失が発生する可能性があり、その損失額は差し入れた証拠金を上回るおそれがあります。

CFD取引にかかる費用等

CFD取引の取引手数料は無料です。なお、取引にあたっては各銘柄の売付価格と買付価格には差（スプレッド）があります。スプレッドは銘柄ごとに異なります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

証拠金について

〔楽天CFD〕

取引金額に対して、指数CFDは10%以上、商品CFDは5%以上、バラエティCFDおよび株式CFDは20%以上の証拠金が必要となります。
(楽天CFDのお取引は現時点では個人口座のみとなります。)

〔楽天MT4CFD〕

個人口座、法人口座ともに取引金額に対して、MT4証券CFDは10%以上、MT4商品CFDは5%以上の証拠金が必要となります。

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会